



きらっと彦根

彦根の魅力★再発見



旧中山道と赤玉神教丸 有川製菓（重要文化財）

旧中山道鳥居本宿の「とりいもと宿場まつり」

彦根は全国的には城下町として知られるが、旧中山道の宿場町が2か所もある。ただしその影は薄く、街道散歩する人で彦根市と認識している人は少ない。多賀大社一の鳥居が残る高宮は中山道の宿場町としては埼玉県本庄宿に次ぐ大きな宿場だったので奥行きが深く、近江商人を多く輩出した大きな商家が残り、街道筋には商店も多く活気もある。

一方鳥居本は、城下町の生活を支えてきた山村が拡がり、狭隘な土地に名神高速道路、新幹線、国道8号が集落を縦断しているが、旧街道沿いはいつもひっそり人気も少ない。街道沿いには、万治元年（1658）創業、赤玉神教丸で知られる有川製菓（重要文化財）や合羽の看板がわずかに宿場町の姿を伝えているが商店は一軒もない。

こんな街道沿いが毎年10月の第一日曜に開催される「とりいもと宿場まつり」には3,000余人が集まり賑わう。きっかけは、滋賀県立大学の学生の発案で始まった赤布祭りであり、2009年にはこのイベントを続けようと「鳥居本お宝発見隊」が誕生した。祭りの開催だけでなく地域の埋もれた文化資源を掘り起こし、まちの賑わいを取り戻したいとの思いも強かった。まつりのテーマは鳥居本宿の名産「赤玉神教丸」や「鳥居本合羽」、そしてかつての名産のスイカに因んで「さんあか」とした。後に改修された鳥居本交流館の名称が「さんあか」になり、鳥居本中学生らによって「さんあかレンジャー」なるキャラクターも誕生し、まつりの開催は順調に回を重ねてきた。

【鳥居本ブランドの発掘やまちなみ整備】

お宝発見隊結成直後には、佐和山城や合羽をテーマとした「三成汁」「合羽タルト」などが誕生したが、今では伝統的な味噌づくりにひと味工夫を凝らした「仏生寺みそ」が鳥居本ブランドとしてすっかり定着している。2月の味噌づくり、5月の山椒摘み、8月の製品作りを経て、まつり当

日のみ販売し運営のための大切な収入源となっている。人が集まるようになると街道沿いの整備が必要だということで、地元企業の支援を得て、鳥居本宿案内マップや標識・案内板の設置が進み、まつり開催1月前には、街道沿いに真っ赤なぼりが並び次第に祭りの雰囲気を高めている。

【新たなムーブメントに期待】

コロナ禍には開催を見送ったが、昨年大きな賑わいで無事終了した。空白期間があったが昨年は新しい試みが2つあった。その一つが名物「仏生寺みそ」の製造の外部委託である。食品衛生法の改正で、安全性を考慮しての判断だった。そしてもう一つが、メンバーの子弟にあたる若い世代が、新たな組織を結成して出店した。設立以来20年を経過するとメンバーが高齢化する中、かすかな光が差したと皆安堵したものだった。

年に一度のイベントだから組織は継続できてきたが、当初の目的とした、日常の活気あるまちづくりへの道を開いていくことは困難であった。それでも、宿場町の賑わいをとり戻そうとしたイベントの成果はあったと自負している。本年も10月5日第17回の開催を目指し、梅雨の合間に摘み終えた実山椒が静かに冷凍庫に眠っている。

（鳥居本お宝発見隊 岩根順子）



赤布で覆われる古民家

河原町芹町重伝建地区

町家公開イベント

6月15日、毎年花しょうぶ通り商店街で開催される「アートフェスタ勝負市」に合わせ、河原町芹町地区の町家公開のイベントを行いました。普段公開されていない建物も含め6棟の建物を公開しました。時おり小雨が降るあいにくのお天気でしたが、多くの方にご来場いただきました。インスタグラムなどのSNS情報を見て、市外や県外からも来られていました。

今年は新たにそれぞれの建物を解説したウェブサイトを作成し、各建物に設置されたQRコードからアクセスできるようにする取り組みを進めています。今回の公開イベントでは、QRコードを掲載したマップを片手に、午前と午後の2回、ガイド付きのツアーを行いました。

河原町芹町地区は、江戸時代から昭和初期に建てられた町家から洋館まで、多様な建物が残っています。その時代の賑わいを感じながらまちを散策できるのが、このまちの魅力です。また、商店や住宅だけでなく、空き家を活用した「街の駅」など、この地域ならではの取り組みに触れることができます。静かに歴史的な建物が残っているだけではないところも、ここの魅力です。

まずは、右のQRコードからバーチャルな体験を。さらに現地でリアルな体験をしてみてください。

(彦根景観フォーラム 笠原啓史)



※上記河原町芹町地区重伝建解説サイトは順次各建物へのリンクを進めています



街の駅 逓信舎



街の駅 寺子屋力石



鈴木家住宅

俳遊館（旧彦根信用組合本店）の魅力を探る

彦根市本町1丁目にある俳遊館は、俳句教室やボランティアガイド協会の拠点として活用されていましたが、耐震性に問題があるとして、現在閉鎖されています。

この建物は、旧彦根信用組合本店として、大正12年（1923）に建てられ、良好な景観形成に重要な建造物として、「景観重要建造物」に指定されています。木造2階建ての建物ですが、屋根の上まで外壁を伸ばして洋風の外観にしています。外観は箱型に単純化したデザインで、2階窓のマリオンや上部垂れ壁に曲面が用いられ、19世紀末にヨーロッパで起こったゼツェッションの影響をうかがわせる建造物です。近くには、同じ大正時代に建てられたタイル張りの洋風建築の「旧本町郵便局」も残っています。



最新彦根市観光案内図・部分（昭和40年）

新修彦根市史第12巻より



俳遊館の外観



曲面が用いられた窓のデザイン

俳遊館のある通りは、かつては白壁町通と呼ばれ、白壁のまち並みであったといわれています。昭和40年の観光案内図を見ると、中央商店街と京橋通（現キャスルロード）とを結ぶ本町商店街として、老舗の和菓子店「いと重」さんや、「本町郵便局」、カラムで有名な「中野木工所」さんなどが建ち並んでいるのがわかります。さらに京橋通の向こうには、市役所や市立病院があり、彦根のメインストリートの一つだったようです。

武士の時代が終わり、彦根が近代化していく過程で造られた「近代化遺産」として、建物を通じて街の歴史を伝える貴重な宝物であると言えるでしょう。

(彦根景観フォーラム 笠原啓史)